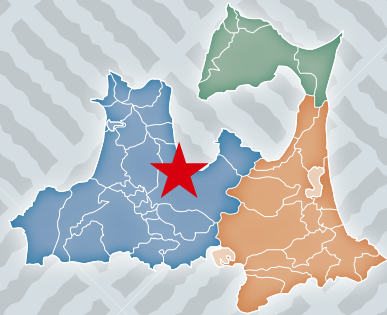


特別史跡 三内丸山遺跡 (青森市)



縄文時代前期から中期にかけて、長期間にわたり定住生活が営まれた大規模な集落跡で、我が国を代表する縄文遺跡です。縄文時代における集落の全体像や変遷、社会構造、自然環境や生業、精神性など、縄文文化を知る上で極めて重要な遺跡です。



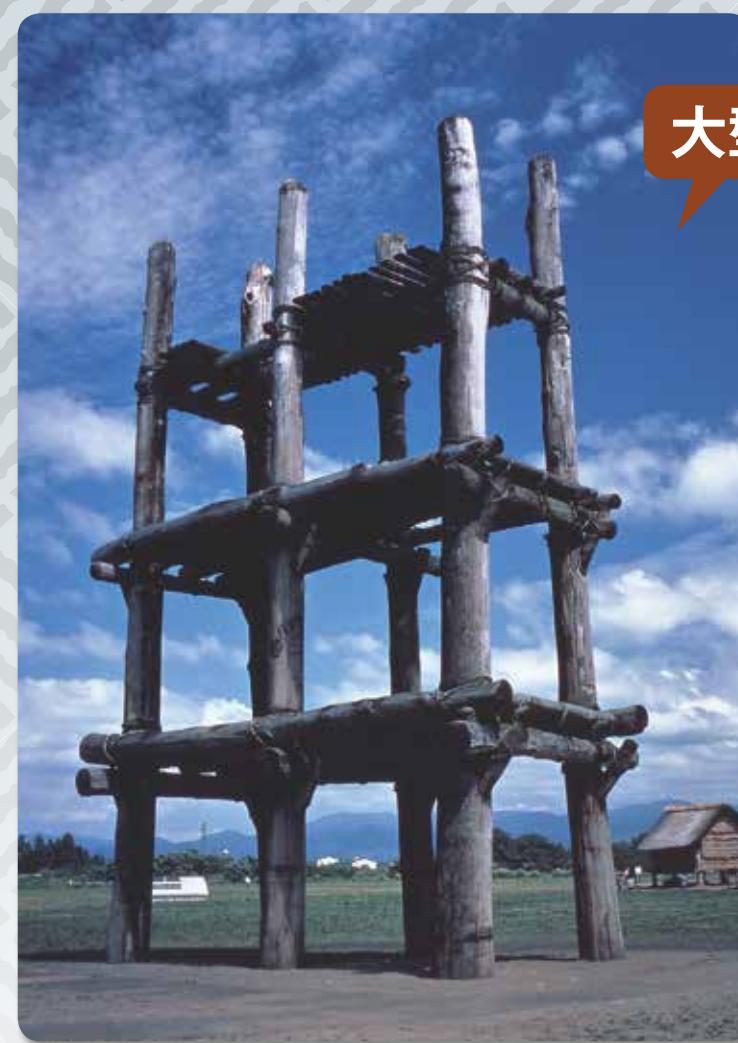
大型掘立柱建物(復元)



大型板状土偶(重要文化財)

全長32cmで、板状土偶では最大級のものです。体は扁平に作られています。頭部と胸部は約90mm離れて出土しました。

大型掘立柱建物(復元)



掘立柱建物は柱穴を掘り、そこに柱を立て、床や屋根を支えています。ここからは直径・深さとも約2mの柱穴が3個ずつ2列並んで見つかりました。これらの間隔は約4.2mで、規則正しく並んでいました。柱穴の中からは直径約1mのクリの木柱が見つかりました。縄文時代中期後半(約4000年前)のものと考えられています。



大型掘立柱建物跡

南盛土

盛土は竪穴住居や穴などを掘ったときの土やゴミ、焼けた土や炭、石器や壊れた土器などが同じ場所に長期間継続して棄てられ、小山のように盛り上がっています。現在、北盛土・南盛土・西盛土の3カ所が確認されています。北盛土や南盛土では土偶が特に多く見つかるため、まつりの場所だった可能性があります。



北盛土

発掘調査された当時のまま展示しています。一面に敷き詰められたような土器は縄文時代中期(約4500年前)のものです。展示している部分はほんの一部ですが、盛土ではこのような状態で何層にも重なって広がっています。



縄文の丘 三内まほろばパーク「縄文時遊館」



土器タワー (さんまるミュージアム)

ミニチュア土器

ミニチュア土器は大きさが10cmにも満たない小さな土器です。深鉢だけではなく、コップやワイングラス、皿、片口などに似た形がみられる様々なもののミニチュアで、マツリに関連した道具と考えられます。



縄文の家づくり



三内丸山遺跡では、縄文の家づくり体験を行いました。青森市立三内西小学校4年生が樹皮葺きの竪穴住居を復元しました。

発掘体験

三内丸山遺跡では毎年発掘調査を行っており、体験することができます。特別史跡で発掘調査を行う目的や意義、方法などを実際に作業を通して体験することで詳しく学ぶことができます。



DATA 基本情報

見学施設	三内丸山遺跡 縄文時遊館 〒038-0031 青森市三内丸山305
開館時間	9:00～17:00 (GW及び6～9月は18:00まで) 年末年始休み
見学科金	無料

詳しい情報は [こちらから](#)

